

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成24年7月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900399		
法人名	有限会社 ケア・プラザ		
事業所名	ケア・プラザ すみれの里		
サービス種類	(予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府富田林市若松町3丁目9番20号		
自己評価作成日	平成24年5月20日	評価結果市町村受理日	平成24年7月26日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成24年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

終いの住み家と定めた場所でその人らしく暮らせるよう又、家族の思いも大切にしゆったりとした雰囲気の中でその人にあった個別のケアと見守るケアを提供しています。職員は終末期の看取りのケアにも対応可能であり、医療機関と24時間体制で取り組み利用者家族の安心に繋がっています。住宅街の純和風の建物も寛いで過ごせる大きな安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「ケア・プラザ すみれの里」は近鉄富田林駅から徒歩で約10分の小高い場所にあり、付近は閑静な住宅地である。木造2階建て純和風の民家を敷地、建物ともほとんど原状のままグループホームとして使用している。手入れの行き届いた庭では、トマトやキュウリなどの旬の野菜を栽培したり、老犬を飼育している。法人の理念は、「1. 付き添い寄り添い見守るケア。2. 出来ない事はお手伝い。出来る事を見い出すケア。3. 言葉使いは尊敬と意をこめて。やさしくゆっくり。4. 好みの献立を。温かい物は温かく。冷たい物は冷たく。5. 散歩・買い物励行。」であり、職員は毎朝、ミーティングで確認している。また、この理念に基づいた「介護目標」を、毎年職員全員で話し合って定めしており、日頃の支援の指標としている。職員は「いつでもそばに」を大切にしながら、利用者にはできない事だけを手伝うことを心がけ、できることの喜びやコミュニケーションの時間を常に大切に支援している。事業所では毎年10月に地元の中学生数名の職場体験の訪問を受け入れ、利用者とのコミュニケーションを体験してもらい、利用者にも喜ばれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎朝、朝礼時声に出して読み確認共有し実践につとめている	理念を事業所内に掲示し、日頃から職員全員で共有している。また、年度ごとに理念に基づいた介護目標を職員間で話し合っており、その実践に日々取り組んでいる。平成24年度の介護目標は「いつでもそばに」である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時、近隣の方々と挨拶を交わしたり、町会の大掃除に職員が参加し交流している	自治会に加入しており、溝掃除などの自治会行事に職員が参加している。近隣の住民とは日頃の散歩を通して顔馴染みとなり、声を掛けてもらえるなどの関係を育てている。毎年、地元中学校の体験学習の受け入れをしており、利用者と中学生の交流にも取り組んでいる。また、敷地の外壁に掲示板を設け、事業所の概要など近隣住民に対して情報発信をしている。	事業所設立時に近隣から十分な理解が得られなかったという経緯があったため、現在も地域行事への参加が消極的な面が見受けられる。地域行事への積極的な参加に心がけ、事業所が地域の貴重な社会資源であることをPRするなど、地域とのより親密な信頼関係の構築が進むことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてポスター等を掲示し、介護相談をいつでも受ける体制を整えている、公園の清掃をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症について話し合い毎日の介護状況、家族の相談等報告している	運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。会議には自治会副会長や地域住民代表（民生児童委員）の他、家族代表が参加しているが、行政関係者の参加がみられない。会議では参加者からの意見や提案事項などはあまりなく、事業所の活動内容の報告のみである。議事録は、市に報告するとともに、事業所内においても職員に回覧し、情報を共有している。	運営推進会議の開催頻度を2ヶ月に1回程度とすることが望ましい。また、行政担当者には開催の2、3週間前に案内するものの協力が得にくいことから、少なくとも会議の年間開催計画を早い時期に提示するなど、毎回行政担当者の参加を促し、より適正な会議の運営ができることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者には報告と相談をしている・グループホーム交流会に参加し情報の交換や共有をし、質の向上に努めている	市の担当者には運営推進会議の議事内容の報告の他、空き状況などの事業所の実情を定期的に報告している。また、2カ月に1回開催される富田林市介護保険事業者連絡協議会（縄なわネット）に毎回職員が参加している。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っていない・玄関、各出入り口も施錠をしていない・徘徊も制止せず付き添い寄り添っている・身体拘束についての研修もしておりスタッフ全員正しく理解している</p>	<p>事業所の玄関は日中一切の施錠をしていない。また、日々のケアを通じて身体拘束がないように職員間で注意を合っている。身体拘束に関する外部研修には職員が参加し、その内容を全職員にフィードバックしている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての外部研修に参加し、ミーティング時の勉強会等での意識付けの強化、単独勤務の日はありません</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ミーティング時の勉強会において学習している。すでに後見人制度を使っている利用者もいる事から理解と同時に支援している</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、本人、家族の方に介護保険制度の仕組みと当ホームのサービスの資料をもとに理解して頂くよう説明し、納得して頂いている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の生活の中で利用者の食べ物の好みや、してみたい事等をお聞きし実行している</p>	<p>事業所の出入口の外側に投書箱を設置しているものの意見等が投函されることはない。また、家族の来所の際に、職員が直接意見等を聴き取っているが、これまで特に意見や苦情が寄せられたことはない。</p>	<p>家族等からの率直な意見や要望等が事業所のサービス向上に向けて不可欠な要素であることを重視し、これまで以上に、家族等が意見や要望等を表出しやすい環境を整えていくことを期待する。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回のミーティングの中で代表者が意見・要望を聞く機会を設けている。管理者は毎日の声掛けにて意見要望提案を聞くようにしている</p>	<p>毎月1回実施するミーティング時に、代表者が職員の意見や要望等を聞く機会を設けている。夜勤の人数や外出できる職員数を増やすなどの自由な意見や提案が言える雰囲気である。こうした意見や提案はミーティングで検討し、必要に応じて運営に反映している。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフは内部研修、外部研修の機会をもち各自向上に努めている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、外部研修に参加出来るよう声かけと機会を設けている。又、伝達研修も実施している</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>なわなわネット研修に参加することで伝達機会を設けている、他のグループホーム、小規模多機能型居宅介護等互いに訪問しあっている</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族的な雰囲気作りと気楽に会話出来るように心がけている事で、どんな事でも相談してもらえるように努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時説明と同時に家族、本人様の要望をしっかりと聞く事でサービス内容が確保され安心してもらっている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りと毎日の観察により、何を優先するか、他のサービス内容が確保され安心してもらっている</p>		

18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	洗濯物たたみ、調理、水やり、草刈り、洗濯等できる家事をして頂く場面を増やしている		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	昔の思い出話を重視し、その上で家族とのパイプ役を行っていく		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	以前に住んでいた家に同行し思い出してもらったり、電話で連絡をとってもらうよう支援している。ホームに訪ねてきてもらうようにも声かけしている	利用者の知人や友人の来所を受け入れたり、昔の友人からかかってきた電話を取り次ぐなど、馴染みの人との関係の継続の支援を行っている。また、以前住んでいた場所に職員と共に出かけ、昔を懐かしんでもらうなど、馴染みの場所との関係継続にもできる限り支援できるように取り組んでいる。	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同志が接点を持つ事が出来るように昔の歌を歌ったり思い出を話し合ったりする事で共感される場面作りに努めている		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	亡くなった方がほとんどで接点がないのが現状です		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>○思いやり意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	コミュニケーションを多くとり介護の中で希望をくみ取り本人本位の姿勢をとり実施している。	利用者担当制により、日頃のケアの中で担当者が中心となって一人ひとりの思いや希望、意向の把握を行っている。会話が困難な場合でも筆談ボードを使うなど、利用者の状態に合わせて希望等の把握に努めている。聴き取った内容はミーティング等で職員間で話し合い、情報の共有を図っている。	
----	--	---	--	--

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	基本状況の把握と日々会話の中でくみ取り、反映するようにしている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察の中で把握し好きな事への支援をしている		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフが毎日のきめ細かいケアの中での様子を共有し合い利用者一人に対してスタッフ二人が対になり担当をきめてモニタリングをして介護計画を作成している	介護計画は定期的ないし状態の変化に応じて随時見直ししている。見直しの際には、あらかじめ聴き取った利用者や家族の意見等を反映している。主治医の他必要な関係者が出席し、利用者本位の介護計画書を作成している。家族にカンファレンスへの参加を呼びかけるが、家族の参加は少ない。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の引継ぎ時に伝達と話し合いを行っている、生活記録に記入し確認と観察、口頭伝達をしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の都合に合わせた個別の対応に努めている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	びあ介護相談員の受け入れと中学生の体験学習への支援、消防署の指導		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	提携医はいるが症状に応じた医療機関を 受診している。（家族様の要望も重視し ている）	本人や家族の希望するかかりつけ医であ る。殆どの利用者が提携医である医療機 関の往診（内科月2回、歯科週1回）を受 けている。受診に家族が行けない場合は 職員が同行している。受診結果は家族に 電話又は面会時に報告している。また、 医療ノートに記録するとともにミーティ ング時に報告し、職員間で情報の共有を 図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている	日常の健康管理バイタルチェックを記録 し医師看護師の訪問時に報告し指示を仰 いでいる、緊急時に対応可能で利用者家 族の方も安心できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携と主治医の話し合い、さら に利用者と家族の要望を反映するよう支 援している。入院中にも面会することで 退院後の関係を保っていく		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針を入居時や 状態が悪化した時、主治医を交え医療連 携体制と看取りの指針を作成し確保して いる（家族様と話し合いの上、医療機関 とのつながり）	利用開始時に家族や利用者に重度化した 場合の対応方針等を説明している。重度 化の時点で本人や家族は看取りを選択す ることができる。その場合には「重度化 と看取りについての同意書」を基に家 族、医師、関係者と方針の統一を図っ ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部研修で勉強した事をさらに学 習する事で実践力に繋げている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	災害時に備えた連絡網が出来ておりすぐ に行動できるようになっている。（役割 分担、消防署の指導もうけている）ま た、運営推進会議において近所の協力が 得られるよう了承してもらっている	年2回の防災訓練で消防署職員による消火 器の使い方や誘導の手順、避難経路など の確認、地震や夜間を想定した自主訓練 を実施している。地域との協力体制は十 分とはいえないが、避難経路にあたる土 地の所有者とは、当該土地の緊急時の使 用について話し合っている。乾パンや水 などの備蓄はしている。	運営推進会議を利用して、災害時における 地域との具体的な協力関係の構築が望ま れる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本とした言葉かけと対応を行っている（前向きな姿勢で生活が出来るような対応をしている）	プライバシー保護について、リーダー研修や内部研修に管理者や職員が参加している。その内容を毎月のミーティングや朝夕のミーティング時にも話し合い、職員間で情報を共有し支援に活かしている。誇りや尊厳を損ねない排泄時の声かけや利用者の写真を無断で貼らない等配慮している。	個人記録等プライバシーに関わる書類等は第三者の目に触れることがないとは言えども、不注意から紛失や他の書類に紛れてしまうといったリスクが考えられるため、日頃から努めて鍵付書庫に保管するなど、より徹底した管理体制の構築が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば当時の希望されるメニューを献立に取り入れたり飲み物の種類、温冷を選んで自己決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例として、折り紙、パズル、ボール投げ等その人の好みのレクリエーションを用意し毎日の生活に組み込んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声かけと出来ない人はお手伝いをして鏡の前で整える（スタッフと一緒に今日着用する好みの服を決めてもらったりもする）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り野菜の皮むき、すじとり等調理参加に声掛けし、おやつ作りもされる。希望されたメニューを楽しんで食されている	食材は1週間分を生活協同組合から購入している。不足分は有機野菜専門店で利用者と一緒に買いに出かけるなどしながら補っている。献立は毎朝利用者の希望を聴きながらその日に食べたいものを選び、好き嫌いのある利用者には好きなものを用意している。利用者はおやつ作りや豆の皮むき、片付けなどできることを職員と一緒にしている。月1回の外食や誕生会の赤飯など季節や行事に合わせた食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望される方にはおかわりをしてもらい、水分摂取に関しては出来るだけ促し、摂取量の確認、記録をし支援に努めている		

42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>週一回の歯科衛生士による検診と毎食後の口腔ケアの声かけと誘導の徹底</p>			
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握しトイレ誘導を行いトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援している。（その人の仕草によって知ることが出来るため観察の重視を行い、習慣づけることでスムーズに行える）</p>	<p>排泄パターンを把握し、個別に声かけを行っている。利用者の様子やしぐさを見ながら無理強いをしないでトイレに行きたい時に行けるように支援している。夜間、トイレから離れている居室の利用者はポータブルトイレを使用している。トイレ誘導を行うことでトイレで排泄が出来るようになった方もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>出来る限り日々の献立と水分摂取、体操により行っているが、医師の指示による便薬の服用も個々に対応している</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は予定として決めてはいるが、希望があればいつでも入浴出来るようにしている（体調を考慮し行っている）</p>	<p>入浴は週2回午後1時から3時までであるが、希望により随時入浴も可能である。職員はおしゃべりをしながらゆっくりと丁寧な入浴支援を心がけている。入浴を拒否する利用者も無く快く入浴を楽しんでいる。同性介助を行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その日の体調やその人に合わせた支援をし、昼寝や就寝時間も自由にしてもらっている。（例えばテレビの见たい方など考慮している）</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各利用者の服薬表を目につく場所に貼っていることで確認し理解している</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみ、シーツたたみ、廊下拭き等、その人の好みに添ったお手伝いに声かけ支援している。（昔話の声かけに心がけている）</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日の散歩、可能な方には理美容に関して外の店を利用できるようスタッフが同行して支援している</p>	<p>日常的には近くの清水大師や象さん公園等への散歩や、週2回有機野菜の買い物に出かけている。また、昼食を外で食べたり散髪に行く利用者もいる。利用者が以前住んでいた場所へ職員と一緒にいくこともある。お花見やドライブ、白鷺公園などの外出も交代で行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物同行、生協の食材配達時等に多少なりとも買い物の喜びを感じてもらっている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を使用することが多く、取り次ぎ等支援している。書ける方には手紙を書いてもらえるよう支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテン、季節の花、椅子の移動により工夫している（昼間障子の移動で光の調節を行っている</p>	<p>玄関に季節の花、棚や壁には利用者の作品や紹介写真等が飾られている。フロアは掃出し窓で明るく、田園風景や山並みが見渡せる。壁には季節の童謡や利用者が作った貼り絵が貼ってある。利用者のほとんどは居間のソファで一日を過ごす事が多く、テレビを見たり、お互い顔を見ながら職員と一緒に会話、歌やボール遊び等を楽しんでいる。事業所で飼育している愛犬（老犬）も利用者の心を和ませてくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人になりたい時、自由に居室に行けるように、又、気の合う人と会話ができるように座る場所の気配りと表情の変化の観察に努めている</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真やカレンダーなど利用者が昔を思い出しながら過ごせるよう工夫している</p>	<p>和風の住居をそのまま転用しているため、1階の居室は広い和室をふすまで仕切ること、それぞれを居室（個室）としている。そのため暑い時期には、利用者の希望で、ふすまを全開し、風通しの良い開放的な空間にすることもある。各居室にはベッド、整理ダンス等を備え付けており、手芸材料や人形、時計、写真、枕、布団、カレンダー等馴染みの物を持ち込みんでいる利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その人に応じた自立支援に努めている、拭き掃除、食器洗い、水やり衣替え等出来ることをしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない